

Fra MAURO

フラ・マウロ図



フラ・マウロ図東半の海上部・陸上部テキストを以下に分けて転写・転記・和訳する：

- 1 海上部：アフリカ東岸から東の海：今号第11号
- 2 沿海部：インディア海から東南アジア：次号第12号
- 3 内陸部：インディア・マンジ・カタイ：第13号
- 4 北方部：タルタリア・ロシア：第14号

フラ・マウロ図：ヴェネツィア・カマルドリ修道会 Fra Mauro による 1450 年頃（1459 年との説もある）制作になる、南を上とする正円図（直径 2m、ヴェネツィア・サンマルコ図書館蔵）。アジア・ヨーロッパ・アフリカの輪郭と大きさが比較的釣り合っていること、東方は海陸とも詳細なこと、ジパングが初めて姿を現すこと、等が知られる。

図およびテキストは、Fra Mauro's World Map, Explore the digital edition of Fra Mauro's World Map on Museo Galileo Website, より。Piero Falchetta, *Transcription of the text on the map in italian*（同図の全てのテキストおよび地名のイタリア語転記、ウェブ上に公開）を参照した。なおこの稿の目的は、その華麗さから図が鑑賞されることはあっても読まれることはまずないそのテキストを転記・和訳して紹介することであり、その内容の正誤、典拠、他図との比較、成立の歴史等の研究は行なわない。主たる情報源の一つであったマルコ・ポーロの関連する章を注に挙げるにとどめる。

1 全体図



2 南半部 (p. 3)



3 南東部



①

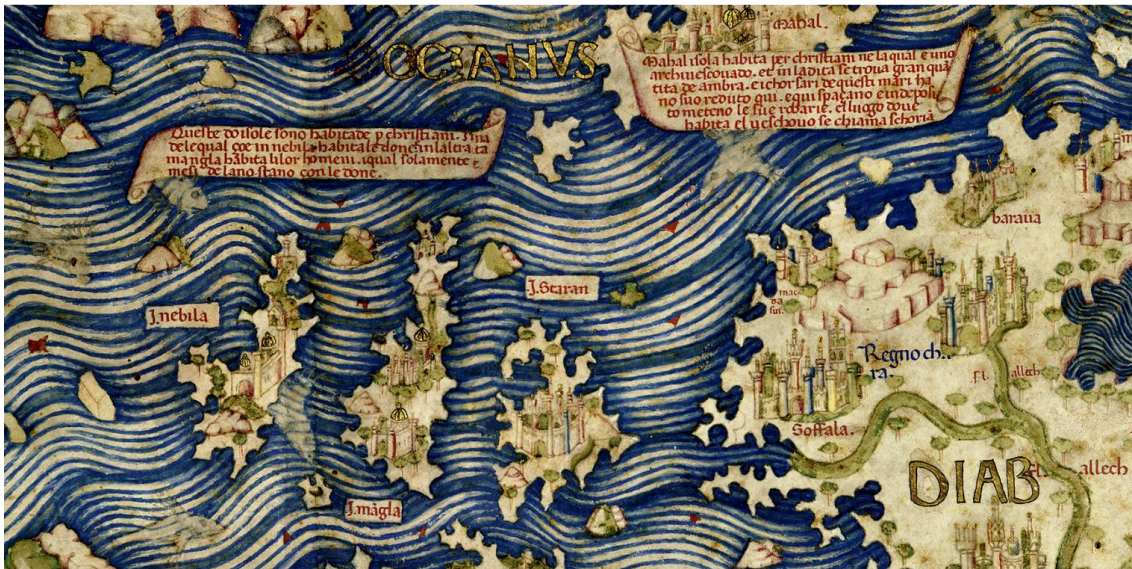


Mahal isola habita per christiani, ne la qual è uno archieueschovado; et in la dita se trova gran quantita de ambra, e i chorsari de questi mari hano suo reduto qui e qui spaçano e in deposito meteno le sue robarie. El luogo dove habita el veschovo se chiama Schorian.

マハル島、キリスト教徒が住み、大司教区が一つある。島には琥珀が大量に見付かり、この海の海賊はここで稼ぎ、ここから売り捌き、自分たちの財物をここに貯め置く。大司教の住む所はスコリアンと呼ばれる。¹⁾

1 内容的にはスコトラ島のことであるが (Cf. MP190「スコトラ」)、地理的には遠く離れる。また、⑦「スコトラ島」と重複する。マダガスカル島の近くにあることからすると、ザンジバル島との混同か (Cf. MP192「ザンギバル」)。

2



Queste do isole sono habitade per christiani. In una de le qual, coe in Nebila, habita le done e in l'altra, Tamangla¹⁾, habita li lor homeni, i qual solamente .iii. mesi de l'ano stano con le done.

1 Falchetta: *dita mangla* <マングラと呼ばれる>.

これら二つの島にはキリスト教徒が住む。その一つつまりネビラには女が住み、もう一つのタマングラには男が住む¹⁾。彼らは、年に3か月だけ女と一緒にいる。

1 島 (左から) J. nebila<ネビラ>、J. mangla<マングラ>、J. Staran<スタラン>。(Cf. MP189「男女島」)



③



Nota che questo cavo de diab è separado da abassia per uno canal el qual è circondado da uno ladi e dal altro de monti altissimi e albori si grandi e spessi che i fano quel canal oscuro el qual ne la sua insidia fa uno çirolo pericoloso per modo che se nave se ne abatesse le pericoleria.

このディアブ岬は、海峡でアバッシェ [アビシニア] と隔てられており、海峡は両側ともとても高い山に囲まれ、その樹々はとても大きくまた繁っていて、海峡を陰らせている。海峡はその内側に危険な渦が一つ巻いており、そのためもし船がそれに出くわすと危ない目に合う。¹⁾

1 ディアブ岬は、地理的にはアフリカ南端に当たるが、ここではマダガスカル島との混同。したがって、「海峡」とは同島とアフリカ東海岸との間の海域、「渦」とはそこを北から南へと流れる激しい海流。(Cf. MP191「マダガスカル・モグダシヨ」)



図1 怪魚 左イルカ？ 右クジラ？

④



Le nave over çonchi che navegano questo mar portano quatro albori e oltra questi do che puo meter e levar; et ha da 40 in 60 camerele per i merchadanti; e portano uno solo timon; le qual navega sença bossola, perche i portano uno astrologo et qual sta in alto e separato e con l'astrolabio in man dà ordene al navegar.

この海を航海する船すなわちゾンキ [ジャンク] は、4 本マストでその他に立て外しできる 2 本を持つ。また、商人用に 40 から 60 の小部屋があり、錨は一つだけである。磁針なしで航海するが、それは占星術師を 1 人乗せているからで、その者は別の高いところにいて、手にしたアストロラーベで航路を命じる。

(Cf. MP158 「インディエ海の船」、占星術師の話はない。)

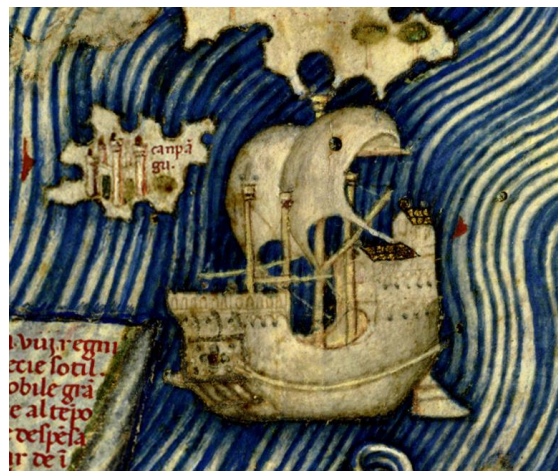


図 2 中国船ジャンク



⑤

Alguni autori sicue del mar d'India ch' el sia serado come un stagnon e ch' el mar ocean non li entri, ma Solin vol ch' el sia ocean e che quela parte austral e del garbin sia navigabile, et io affermo che algune nave açira e volta quel camin. E questo anchor conferma Plinio quando el dice al tempo suo do nave se mosse del mar de Arabia, e dice la cason, la qual qui lasso, ma charge de spetie, ziroe quele parte perfin in Spagna e a çibeter descargo. Anchora facio afferma questo et similmente hi experimentadori de quel camin, homeni de gran prudentia, i qual concorda con quel i autori.

何人かの著述家たちは、インディア海について沼のように閉じられており大洋はそこに入り込まないと主張する¹⁾、がソリヌスはそれは大洋で南と南西の部分は航海可能だと言う。私も、いくつかの船がそのルートを回って帰って来たことを肯定する。このことはプリニウスも確認しており、当時 2 隻の船がアラビア海から出発し、その理由も言っているがここでは省略するが、香料を積んでその部分をスペインまで回ってジブラルタルで荷を下ろした、と言っている。このことも私は肯定し、とても思慮深い人たちであるこのルートの経験者もこのことを同じく肯定しており、これら作家たちと一致する。

1 プトレマイオスでは、インディア海はアフリカ・未知の大陸・東の果ての地で閉じられた内海に描かれる。

⑪

Cavo de Diongul. デイオングル岬。(下の図では tana<タナ>)



⑥

Isola Hormus è molto calida e marchadantescha, ne la qual non piove mai, e lonçi da terra ferma da la banda de Mogalistan mia 20 e da la banda de Misira mia 300.

オルムス島はとても暑く、商売が盛んだが、決して雨が降らず、大陸のモガリスタン [モガディシヨ] の傍から 20 マイル、ミシラ付近から 300 マイル離れている。

(Cf. MP198 「クルモス」)

⑦

Isola Socotra, posta tra el mar de Persia e Aden, ma piu inverso el mar rosso e posta per sirocho contra la boca del dito mar. Hi abitanti sollevano esser christiani e sono nicromanti, e con quel arte tuo e vende el vento prospero a hi naveganti.

ソコトラ島、ペルシャ海とアデンの間にあるが、より紅海の方に位置し、前述の海の入りに対して南西の方角にある。住民は、常にキリスト教徒であったが降霊術使いで、その術でもって航海者に順風を止めたり吹かせたりする。

(Cf. MP190 「ソコトラ島」)



MARE PERSICUM

Nota che per questi colfi, in molti logi, a certi tempi se pesca perle in gran quantita de diverse sorte, e altri tempi non se ne puo trovar, per ho¹⁾ alcuni dicono che le fano passaço. Anchora hi physici dicono che per queste marine de le Indie se recoie quel folio che se mete ne la tiriacha, el qual è piu pretiose de quello che è fra terra.

1 Falchetta: *perche*.

ペルシャ海

これらの湾は、多くの箇所である時期は様々な種類の真珠が大量に採れるが、別の時期には見付からないと言う。そのため、ある者たちは移動したのだと言う。また医術師たちは、このインドア海ではテリアカ[解毒剤]に入れる葉が採取され、それは陸上にあるものより貴重だと言う。



MARE INDICVM

Quela tirada de isole che cençe el mar d'India, come è designato, a la vie circular sono habitade per diverse qualita de oseli. E in questo mar se trova ambracan, e quelli de la dicono ch'el nasce in quele isole e ch'el mar slavaçando quele, el porti poi con le corentie nel mar Indian; e altro crede quello esser sperma de balena. E nota che quando i naviganti vedono li oseli de le isole predite, parendoli esser acostadi tropo a quele, se delongano da esse perche oltra quele sono le tenebre, le qual sono tanto dense che le nave che se abatesse intrar in quele non poria ni andar ni tornar in drieto. E questo se sa per experientia che quele che se hano abatude sono peride.

インディア海

図に描かれているようにインディア海を回遊の道から閉ざすこの島の連なりは、様々な種類の鳥が住む。この海には竜涎香が見付き、そこの者たちは、それはこれらの島に産し、海がそれを洗い、その後流れとともにインディア海に運ぶのだと言う。また別の者は、それは鯨の精液だと信じる。また、航海する者が上述の島の鳥を目にすると、そこに近づき過ぎたと気付く、その向こうは暗闇だから、それから遠ざかる。その闇はとても深く、その中に入り込んでしまった船は進むことも戻ることもできないだろう。これは、それに出くわした船が滅んでしまったという体験から知られる。¹⁾

1 下図参照。どこに当たるか明確でない。



図3 インディア海を回遊から阻む列島 (9)

10



Nota che secondo el dir di marinari esperti de questo mar indico, vi sono isole 12600 fra habitade e non habitade, ma le habitade sono fertilissime.

このインディア海に通じた船員の話によると、人の住む住まぬ合わせて1万2千6百の島があるが、人の住む島はとても豊かである。¹⁾

1 ポーロではインディア海の島は「1万2千7百」(Ch. 192「ザンギバル」)。



MARE INDICUM

Diuamoal¹⁾ isola, la qual è cavo de isole 12000, come apar e testimonia quelli che navega per quel mar, ne le qual nasce porcelete assai e spendese per moneda. Et in queste sono molte novita, le qual se tase. E le dite isole score siroco e maistro, che è quasi atraverso del mar de India. E per ho²⁾ la nave che navega quel mar schiua molto de acostarse per l'evidente pericolo.

1 Falchetta: *duiamoal* <ドゥイアモアル>. 2 Falchetta: *perche*.

インディア海

ディウァモアル島、[図に] 見えるとおりまたその海を航海する者たちが証言するごとく、1 万 2 千の島々の主である¹⁾。そこにはタカラ貝がたくさん産し、お金として使われる。また珍しいものがいっぱいあるが、述べない。上の島々は東南と北西の風が吹き、それはほとんどインディア海を横断する。そのためこの海を航行する船は、明らかな危険ゆえそこに近づかぬよう避ける。

1 記事内容は左の「セイロン島」のことであるが、名前は右上の小島 *diua/duiamoal isola* <ディウァ・/ドゥイアモアル島>。

13 COLFO DE MILIBAR



Nota che quelli che navegano questo mar de Indie dice che in questo cavo de Chomari, el qual è a man çancha, se perde la tramontana over el polo articho, e questo se afferma per tuti.

ミリバル湾 [マラバル]

このインディア海を航海する者たちは、左手にあるこのコマリ岬で北の星すなわち北極が見えなくなると言う。これは全ての者によって肯なわれる。¹⁾

1 東から航海したポーロでは、小ジャワ (スマトラ, Ch. 166) で見えなくなり、コモリン岬から再び見え始める (Ch. 181)。



Nota che le nave le qual navegando per ostro se lassa acostar a le isole perse, le corentie le portano a le tenebre, et intrade in quele per le sue densita, e anchor de quela de le acque, le qual son molto tegnente, convien perir.¹⁾

船が南に向かって航海していて失われた島々に近づくままにすると、流れが船を暗闇に運び、その濃密さのためその中に入り、とても深いその海の闇のために滅んでしまうことになる。

1 「暗闇」は、ポーロではロシアの北方であるが、ここでは既知の世界の外の未知の領域全てを指す模様。



Nota de la nibilissima isola de Saylan e de le sue miraveie.

Saylan isola nobilissima volta mia circa 3000, richissima d'oro e d'arçento e diverse piere pretiose e specialmente de rubini. El re de questa isola se dice haver uno rubin, el piu bello che sia al mondo, longo una spana, grosso chome el braço, sprendissimo e rubicondo sença alcuna macula. In questa se dice esser un monte dito de Adam, ne la sumita del qual non piove mai per la sua alteça, ne li se sente vento. E a la dita sumita per abreviar el camin se ascende per .vi. catene de ferro site nel monte, una a capo de l'altra per Alexandro Magno¹⁾. E in questa sumita se dice esser nel saxo la forma del pe' dextro de Adam, ne la qual apar de molti rubini. E li habitanti affermano che Adam capitasse in questo monte. E questa isola è fertilissima de tute cosse neccessarie a la vita humana. E qui se vive longissimamente per la bonta de l'aie e perfetion de le acque. Anchor qui se trova assai elefanti.

とても立派なサイラン島とその驚異について。¹⁾

この上なく立派なサイラン島は、周囲 3000 マイル、金・銀や様々な宝石、とりわけルビーに極めて富んでいる。この島の王は、世界で最も美しく長さ 1 スパン、腕ほどの太さ、とても輝き真っ赤で何らの陰りもない一つのルビー、を所有していると称する。この島にはアダムと呼ばれる山があり、その頂はその高さゆえ決して雨が降らず風も吹かないと言われる。またその頂上へは、歩みを短くするため、アレクサンドロス大王によってその山の一つの峰から別の峰へと架けられた六つの鉄の鎖によって登る²⁾。また、その頂上には岩にアダムの右足の型があり、その中にはたくさんのルビーが見られると言う。住民は、アダムがこの山に遣って来たと断言する。この島は、人間の生に必要なもの全てにこの上なく富んでいる。またここは、良い空気と完璧な水のお蔭で人はとても長生きする。さらに、ここは象がいっぱいいる。

1 図は斜め右下の島だが、⑫と重複する。 2 アレクサンドロス大王によるというこの伝説は、他には見られない。

(Cf. MP173,178 「セイラン」)



Isola Colombo, questa è abundante d'oro et molto mercadantescha. E qui nasce pevere in quantita et ha endego fin assai. E qui se trova lioni tuti negri e papaga bianchi con i pie e 'l beco rosso. La çente de questa isola sono de diuerse fede, çoe çudei, macometani e idolatri. Item in questo mare de India sono alcuni pessi iqual siando incalçadi da hi altri pessi grandi intrano in corpo de suo mare¹, e passato quel pericolo, quella apre la bocca e quelì eschono fuora.

シロッコ（東南の方角）

コロombo島¹、金に豊富で商売が盛んである。また、胡椒が大量に産し、良質のインディゴがいっぱいある。真っ黒のライオンや足と嘴の赤いオウムがいる。この島の人々は、様々な信仰を持ち、すなわちユダヤ教徒、マコメット教徒、偶像崇拝者たちである。またこのインディア海には次のような魚がいる、他の大きい魚に追いかぜられるとその海の²体内に入り、その危険が去ると、大きいのが口を開け小さいのが外に出る。

1 不明、図にその名の島はない。セイロン島の首都はコロomboであるが（図4）。 2 (in corpo) de suo mare<その海の（体内へ）>：文意からするとおそらく de suo pesse<その魚の>。



Isole Lamuri¹⁾, Nauagari e Arij. Queste sono habitade da gente crudel, indomita e idolata; e Taprobana se guarda con queste grieco et garbin.

ラムリ、ナウアガリ、アリエ島。これらの島は、残忍で未開の偶像崇拜の者たちが住む。タプロバーナはこれから北東と南西の方角に望まれる。

1 Falchetta: *iamuri* <イアマリ>。 2 ラムリ、ナウアガリ、アリエ：不詳だが、図では左下の3島（下図）。



図5 島（左から）lamuri, Arij, nauagari, nargilfaras

18 TAPROBANA



Taprobana isola nobilissima, la qual se dice volta mia piu de 4000 et è divisa in quattro regni, ne la qual se trouva oro assai, piper, ganfora, legno aloë, el qual se chiama galanbach e ha odor piu nobel sia al mondo e vendesse a peso d'oro. E qui nasce i arbori uno fruto chiamato durian, è de grandezza de una rasonevel anguria e ha el scorço verde e grapoloso chome la pigna, e ha dentro ve fructi, chadauno de grandezza de una rasonevel pigna, e chadauno de questi ve fructi hano differente suavita de sapor; e sono dentro de color paonago, e sono molto calidi. Qui se trouva elefanti assai. E hi homeni de questa isola sono de mior condicion cha quelli de le altre isole vicine; e sono formosi homeni, forti e çentil e boni astrologi, ma idolatri; sono anhora maçor de statura cha quelli che nasceno in India. E li loro elefanti maçor de quelli de le Indie. E quelli de le Indie maçor de quelli che nasce ne le Mauritanie, e questo è per el suo optimo sito e bonta d'aie.

とても立派なタプロバーナ島¹⁾、周囲4千マイル以上と言われ、4つの王国に分かれている。金、胡椒、樟脳、アロエの木がいっぱいある。アロエの木は、ガランバックと呼ばれ、世界で最も高貴な芳香を持ち、金の重さで売られる。ここにある木にドゥリアンと呼ばれる果実があり、スイカの実くらいの大きさで、松毬の房のような緑の皮を持ち、中に果実があり、それぞれ松の実のような大きさで、これらの果実はそれぞれ違った美味を持ち、中は深紅色で、とても温かい。ここは象がいっぱいいる。この島の人間は、近隣の他の島の者たちより体格がよい。大柄な人間で力があり善良で優れた占星術師であるが、偶像崇拝者である。また、インディアに生まれる者たちより背丈が大きい。彼らの象はインディアのより大きい。そして、インディアの象はマウリタニアに生まれるのより大きい、これはその最良の場所と空気が良いためである。

1 タプロバーナは古来セイロン島のことであったが、ここではスマトラ島（左下、ポーロの「小ジャワ」MP166）。

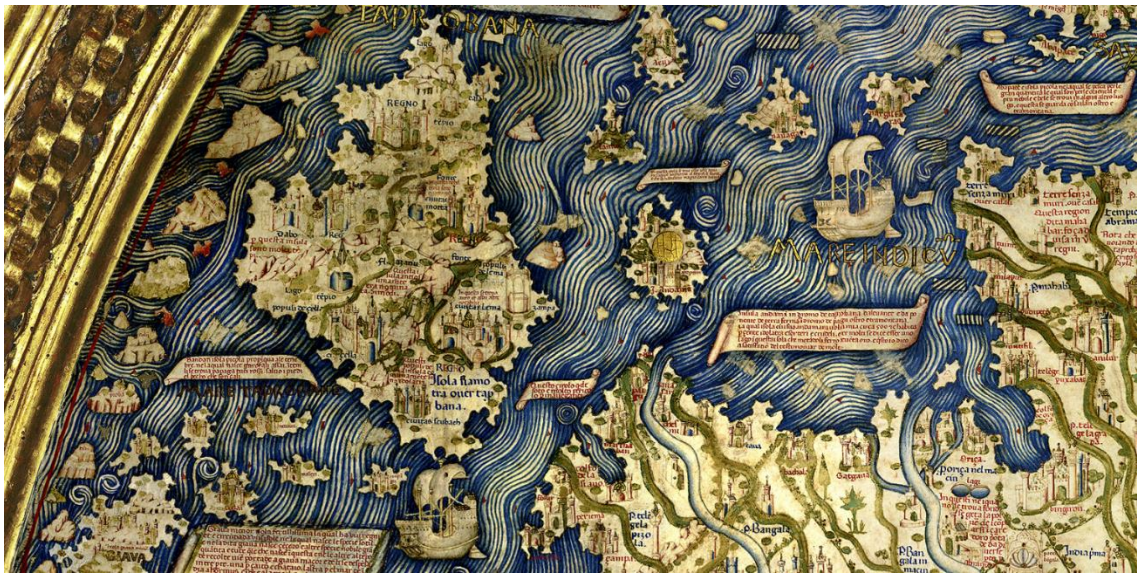


図6 タプロバーナ島

- 1 Isola siamotra ovvero taprobana.
シャモトラ [スマトラ] あるいはタプロバーナ島。
- 2 Questi populi de la insula comunamente sono idolatri.
この島の住民は皆偶像崇拜者。
- 3 In questa si trova auro et assai notabilie.
ここには金や極めて注目すべきものが見つかる。
- 4 Questa insula antiossimamente era nominate Simondi.
この島は大昔はシモンディと呼ばれていた。
- 5 In questa nobel ixola sono quattro regni.
この立派な島には4つの王国がある。
- 6 Per questa insula sono molti tempi.
この島には多くの寺院がある。

19



Abapaten è isola piccola, ne la qual se pesca perle gran quantita, le qual son perle oriental e piu nobile e bele se trovi in algun altro luogo. E questa se guarda con Sailan ostro e tramontana.

アバパテンは小さな島で、真珠が大量に採取される。それはオリエントの真珠で、他のどこよりも立派で美しい。この島はサイランの南と北から望まれる。¹⁾

1 インディア本土とセイロン島に間にある小島（図中央上）。ポーロでは、ベッタラル湾にあるとされるだけで名前はない（MP174「マアバル」）。

20



In questa isola se dixe esser una aqua ne la qual, bagnando el fero, el se fa oro, e che li habitanti magna carne humana.

この島には、鉄を浸すと金になる水があると言われる。また、住民は巨大な肉体〔を持つと〕言われる。¹⁾

1 どの島か不明、左上は Lamuri<ラムリ>、右上は Nauagari<ナウァガリ>。



Insula Andaman, in dromo de Taprobana da levante e da ponente de terra ferma, e in dromo de pagu¹⁾ ostro e tramontana. La qual isola, cum i suo andamani, volta mia circa 500, et è habita per çente idolatra e sorteri e crudeli. E per molti se dice esser uno lago in questa isola, che metandoli ferro diventa oro; e questo io dico a satisfaction del testimoniar de molti.

1 Falchetta: *pagu*.

アンダマン島、東にタプロバーナ西に大陸と面し、南と北を[1]に面する。アンダマン人の同島は周囲約 500 マイルあり、偶像崇拜で占いをを行う野蛮人が住む。また、この島には 1 湖がありそこに鉄を漬けると金になる、と多くの者によって言われる。私はこれを、多数の者の証言によりそのとおりだと言おう。²⁾

1 pagu/paigu: 不明。 2 左上の島、Cf. MP172 「アンガマン」。

22



Questo circolo qui de soto è molto pericolo per i naveganti.

この下の渦は航海者に大いに危険。

23



MARE TAPROBANE

Bandan, isola picola propinqua a le tenebre, ne la qual nasce garofali assai. Item li se troua papaga tuti rossi, salvo i piedi e 'l becho, che son çali.

タプロバーナ海

バンドン、暗闇に近い小島、丁子がいっぱい採れる。また、黄色い足と嘴以外は全て赤いオウムがいる。¹⁾

1 図にその名の島はないが、ポーロのペンタン島か (MP165)。



Giaua menor, isola fertillissima, la qual ha .viij. regni et è circunda da .viij. isole, ne le qual nasce le specie sotil. E ne la dita Giaua nasce çençero e altre specie nobile gran quantita; e tute quele che nasce in questa e ne le altre, al tempo de raccolte, vien portade a Giaua maçor, e de li se despensa in tre parte: una per Çaiton e Cataio, l'altra per el mar de India a Hormus, Çide e a la Mecha e la terça per el mar del Chataio da la parte de tramontana. Et in questa isola, secondo el testimonio de quelli che navegano questo mar, el se vede el polo antarticho, levado uno braço.

小ジャワ、豊穡の島、8つの王国があり、8つの島に囲まれている。良質の香料を産する。このジャワには、ショウガその他高価な香料が大量に採れる。ここや他の島に産するものは全て、収穫されると大ジャワに運ばれ、そこから3つの地に送られる。一つはザイトンとカタイオ、もう一つはインディア海を経てホルムス・ジッダ・メッカ、三つめはカタイオの海を経て北の地である。またこの島では、この海を航海する者の証言によると、南の極が腕一つの高さのところに見える。¹⁾

1 Cf. MP166 「小ジャウア」.



Giauza maior, isola nobillissima, posta in levante, in le ultime parte del mondo, in dromo del Çin, pertinentie del Chataio, e del colfo over porto de Çaiton. La qual volta çircha 3000 mia ed ha iiii regni; e sono populi idolatrij, sorteri e çente maligne. Ma la isola è tuta deletevele e fertillissima, ne la qual nasce cosse assai, çoe oro gran quatita, legno aloë, sulibançui¹⁾ e çoie nobillissime e altre meraveie. E dal cavo dever ostro el gli è uno porto, el qual se chiama Randan, nobile e grande e seguro, e a visin de quello è la citade nobillissima Giauza, de la qual se dice assai meraveie.

大ジャワ [ジャワ]、いとも立派な島、東の、世界の最後の地に位置する、カタイオに属するジン [チン] とザイトンの湾あるいは港の向かいにある。周囲約 3 千マイルで、王国が四つある。人々は偶像崇拜で占いをを行い、邪悪な者たちである。しかし、島はとても快樂的で豊かである。たくさんのもの、すなわち大量の金、アロエの木、スリバンズイ¹⁾、とても高価な宝石、その他驚くべきものが産する。南の方の岬に港が一つあり、ランダンと呼ばれ、立派で大きく安全で、その近くにはとても立派なジャワ市がある。そこについては多くの驚くべきことが語られる。²⁾

1 sulibançui/-çin<スリバンズイ/-ジン> : 不詳、ポーロでは「ラベンダー」。 2 Cf. MP163「ジャウェア」。



図7 ジャワ島

- 1 Questo porto de l' insula è dito Randa.
島のこの港はランダと呼ばれる。
- 2 Giaua mazor. 大ジャワ
- 3 Per tutta questa isola se fa arder i corpi morti e consumar.
この島はどこでも死者の体を焼いて食べる。
- 4 Isola giaua mazor molto pretiosa e fertilissima ne la qual son piusor regi
大ジャワ島、とても価値高く極めて豊か、複数の王がいる。

(下の島はジパング、右下の半島はザイトン)